

5 「教育協働」の確かな形！「CS」と「地域学校協働本部事業」の一体的作動！

堂本 彰夫

(1) さらに見えてきた？教育協働の具体的な形（戦略？）?!鍵となる「コーディネーター」の存在?!

久し振りの論稿であるが、昨年12月（22日）の「教育協働アカデミー」（那覇市若狭公民館との共催）は、予想以上に面白かった！そして、刺激的でもあった！それは、一重に、ゲストスピーカーとして参画してもらった、沖縄県今帰仁村のUさん（同村地域連携コーディネーター）の活動報告のお陰である！本当に、こういう人（コーディネーター）が実際にいる（活躍している）のか！まさに、そういうことであった（果たしている役割とか、実際の活動内容は驚愕に値する？そして、キャラも？笑）！ここでは、それについては、これ以上は書かないが（知りたい人は、ネット等で容易に知ることが出来るので、是非そうして下さい！）、もう一つここで力説しておきたいことは、以前にも書いたとは思いますが、Uさんの所属形態である！すなわち、現在の、彼のようなコーディネーター（学校と地域の架け橋？）のほとんどが、いわゆる社会教育所管課（生涯学習振興課等）の配属となっているが、彼が、何と「学校教育課」の配属となっていることである！実は、そこが、何よりも評価されるのであるが（本人が、そう思っているかどうかは分からないが？笑）、まだまだ、こうした動き（しくみ）は、稀有なものとなっているわけである?!

しかるに、これは、当時の教育長さんの英断によるものであるらしいが、まさに、途轍もない意義を有しているのである！理由は簡単であるが、その存在（配属）が、学校関係者にはより身近なものとなるからである（最初は警戒すべきものであるが？笑、直接繋がっている！違和感がない？お互いが接触し易い？）！と言うのも、大変素晴らしいことではあるが、これまで学校（現場）は、正直言って、教育委員会（行政）の介入（出入り）を嫌がっている（煙たがっている？）?!しかし、予算や人事権等が握られている！しかも、様々な要因・歴史的背景があり、ある意味、それは、永遠の関係構図（文化？）ともなっている（「教育（機関）」と「教育行政」の宿命？）?!ただし、これについても、ここでは、これ以上触れないが、要は、これまでの壁（現場と行政、さらに、そこにおける学校教育行政と社会教育行政の分離？）を如何に乗り越える（壊す？）かが鍵なのであるが、どうしても、それが出来ない？あるいは、そうなるうとしていても、担当者や関係者の移動や交代等によって、それが遮断されたり、後退したりする?!ある意味、それは、仕方ないことであり、極端に言えば、その責任は誰にもない？そういうことでもあったわけである?!

であれば、もうそろそろ、その負のループを断ち切らなければいけない！そうしなければ、いつまで経っても、事態は好転しない？あるいは、放置され続けるだけである？しかしながら、やりようによっては、そうした軛（隘路？）から逃れられるのではないか？そういう動きやしくみも、徐々にではあるが、出現してきている！その具体的な姿・形が、ここで何回も取り上げている「CS（コミュニティ・スクール）」や「地域学校協働本部事業」であるわけであるが、問題（課題）は、上述の「軛（隘路）」を如何に解きほぐしていくかである！要は、それを目指さなければ（重要視されていないと！）、いくら協議体を組織し、何度かの会議を行ったとしても、ただそれだけでは、有効な動きを創り出していくことは困難である（名ばかりのそれとなる？）！だからこそ、その両者の「一体的駆動」が必須なのであるが、それさえも、なかなか実現しない？それ故に、そこに関わっている各種のコーディネーターの活躍、協働態勢が求められるということである（位置付けや役割は、あまり目立たないが、その存在意義は、非常に大きいということ！）！

(2) CSと地域学校協働本部事業の一体化（→「教育協働」）が、それらの軛（隘路）を打ち砕く?!

さて、そのような軛（隘路）を打ち砕こうとしているのが、前述の「地域連携コーディネーター（Uさん）」の存在（活躍）であるが、それは、まだまだ、ある特定の（ある意味傑出した？）人物（人財）の話であって、いきなり、そのような人材（財）を、すべての学校に配属することは難しい（およそ不可能でもある？）！そうであれば、現在、まがりなりにも各学校（区）に配置されている、各種各様のコーディネーターの思いと力を合わせるというやり方（考え方）が、現実的な方法（戦略）として、俄然クローズアップされてくる！ただし、もちろんそれは、これまで、まがりなりにも導入されてきた「CS（コミュニティ・スクール）」と「地域学校協働本部事業」の、事実上の一体化の動きの中での話である！繰り返すように、それらの取組みは、基本的に、前者が「学校教育行政」、後者が「社会教育行政」という二本立て（並置）で行われているからである（これが、実は大きな壁となっていた？）！

そんな中、私の、最初の頃の教え子であるY君が現在校長を勤めている「N市立OM小学校」と、私達が行っている「教育協働アカデミー」が、いわゆるコラボ事業を行うことになっている（2月7日午後2時から）！それは、同校の「学校運営協議会」との共催という形の「運営協議会拡大公開セミナー/教育協働アカデミー

26年2月イベント」というものであるが、私からすれば、それは、(改めて)これから必要となる「地域と学校が共に歩む教育協働の新たなカタチ」を模索するものということである！ただし、そこには、「～OMの実践と多目的教室で目指す未来～」というサブタイトルからも明らかなように、新しく設置(建設?)された「多目的教室」の活用というようなことが、視野に入れられている！すなわち、「今回のセミナーでは、OM小学校と地域が共に取り組んできた学びの実践を振り返り、あわせて、学校運営協議会を軸とした『教育協働』の新たな取り組みとして、地域と学校の学びをつなぐ多目的教室の校内オープンについてご紹介します。『教育協働』の視点から、学校と地域が共に育ち合うこれからの学びのカタチを考える機会です。教育や地域づくりに関心のある方は、ぜひご参加ください。」ということである(参加案内用の「ちらし」より→ご入用の方は、是非私にご連絡下さい！)。

なお、「タイムスケジュール」としては、1. 講話①(TTさん:一社Leikki mokki 代表理事)、2. 講話②(YT:南城市立大里南小学校校長)、3フリーディスカッション(MC井上講四:教育協働研究所～岳陽舎～代表)となっているが、会場(同校「多目的教室」)とオンラインの、いわゆるハイフレット方式で行うことになっている。一人でも多くの人達が参加してくれることを、大いに期待している！余談であるが、このようなコラボ事業が実現することに、私自身は喜びを隠せないが、とりわけ卒業生とのそれは、格別喜ばしいものであることは言うまでもない！それぞれの立場(職場・職階)が、大いにそれを左右することは明らかであるが、今後、このようなコラボ事業が、各面で実現・拡大していければ、「教育協働研究所～岳陽舎～」と名乗り、細やかではあるが(否、それ以下?笑)、退職後の社会貢献を為そうとしてきた私にとっては、甚だ「教師冥利」というものである！とは言え、それとは違う次元で、顔を出して、集まってくれる卒業生との交流も(「教育協働」ではないが?笑)、等しく喜ばしいものであることは言うまでもない！

(3)今、何が必要なのか?そして、それを具現化していくためには、どういう取り組みが有効なのか?

ということで、ここでは、改めて、「今、何が必要なのか?そして、それを具現化していくためには、どういう取り組みが有効なのか?」という趣旨で、「CS(コミュニティ・スクール)」と「地域学校協働本部事業」の「一体的駆動」の必要性について言及してきたわけであるが、その鍵を握っているのが、各種のコーディネーターの働き具合であることは、これまでの考察及び各地の好実践より明らかである！そこで、今回の事例(コラボ事業)をそういう視点で、冷静に捉えてみると、実は、もう一つ評価すべき点があることが分かる！それが、新しく設置された「多目的教室」の存在であり、その活用の仕方である！事前に聞いたところによれば、Y校長は、そこを、言わば「校内公民館」のような場所にしたいらしいが(児童や教員、そして地域住民の交流・学習の場?)、私としては、それに加えて、上記した各種コーディネーターの交流の場(フランチイズ化?)となって欲しいということである！もちろん、そこは、教職員との情報交換、交流の場となって欲しいということである！

要は、これまでの取り組みは、往々にして、形だけ(組織)を早急に作り上げ(上からの指示?横並び意識?)、それによって何を実現するのかの、言わば目的意識が希薄で(後追いで?)、関係者(とりわけ教職員?)のモチベーションがなかなか上がらないという課題があった?!しかも、近年の「働き方改革」の、まさに負の影響もあり(またしても、良からぬ負担が生じるというような?)、掛け声とは裏腹に、その実が進まない?あるいは、それにブレーキが掛かるというようなことも、声を大にしては言えないが、あったようにも思われる(別の卒業生等の声からも?)?!もちろん、そうした思いや受け止め方も、現実的にはよく分かるが、だが、それは、やり方(内容)の問題であって、決して意義/可能性自体の問題ではない?!実際上の問題は、何故、そうしたことが必要なのか?目指す成果は何なのか?あるいは、何故、そのようにしたら、そうした成果が得られるのか?そうしたことが見えていない?!あるいは、実感されていない?!そこが、問題なのである！

だが、明らかなように、そうしたことを述べても、どうしようもない！さらには、出来ない理由を、数々あげつらっても、現実是不変である！しかも、事態は、ますます深刻化している(いじめや自死数、教職員の休職・退職数の増加等は、その最たるものである!)！であれば、やるしかない?!そうしたことが、少しでも減っていくような取り組みやしくみを、自分達が創り出していく他ない?!ポイントは、今までのような、自分達(学校)だけで、それをやるということではないということである！地域の人々の意見や思い、協力を、まったく新しい形で取り入れていくことである！しかも、それは、学校(教職員)だけのためではないということである！親を含めた、地域社会全体(コミュニティ)にとっても、メリットとなるということである！ここが分かれば(否、実感出来れば)、絶対にやってよかったという思いや次なる行動が、自発的に生じてくるはずである(そうした事例も多くある!)?!そこが、重要なのである！大切なこと、そして、真に必要なことの実感は、時間が掛かるものである(多くの人は、残念ながら、目先のことで動く?笑)！政治や経済も重要であるが、それらを動かすのは「人」である！教育は、その「人」に関わっているのである！(つづく)